



息の緒を紡ぐ - 木密に広がる都市の肺 -

5年後  
10年後  
30年後

平面図 1:250

### 0. 窒息した街



江東区亀戸中央通り商店街。シャッター街化したこの商店街の裏手には木造の住宅が密集している。接道条件が悪い家は退去後の住み手が見つけ難いため、空き家・準空き屋が増加しており災害の危険性が高い地域である。

### 1. 縮退を前向きに捉える



縮退しているからこそ生まれる人と人、都市と人の豊かな関係性のあり方を考える。空き家を減築して1階を街へと解放し、2階は単身者や若年夫婦向けの賃貸として活用する。新しいコミュニティが若者を呼び寄せ、都市の更新を促進する。

### 2. 「減らす」「遺す」「繋ぐ」。そして生まれる生活と記憶のランドスケープ

減らす



柱と一部の耐力壁を残して壁を開き、1階を街へ解放する。

遺す



床や天井、垂れ壁や照明・家具などの設えを遺し、生活の痕跡を継承した外部空間をつくる。

繋ぐ

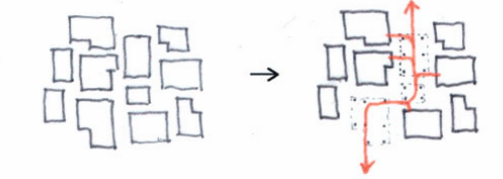


空き家同士を新たに壁で接続する。壁は小さな家々を繋ぐことで水平耐力を高め耐震補強を行うと同時に、各住戸の平面に拘束されない新しい領域を地面レベルに生み出す。

### 3. 息を吹き返す都市の風景



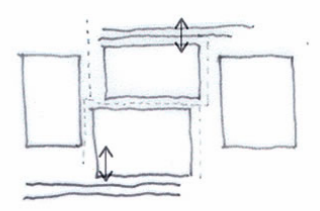
壁が抜かれ一体となった地面レベルは、2階の住人のモノが置かれ生活がしみだす大きな共用空間であると同時に、街との接点となる新たなコミュニティスペースとなる。



減築の操作は同時に避難経路をつくる。またGLは風が抜け植物は育ち、奥まった住戸の環境は改善されていく。

### 4. 減築に呼応するように、街全体が呼吸を始める

密集した住戸は道としか接点を持つことを許されず、窓も開けられなかったため背を向いた家同士の関係は希薄だった。



減築により周辺住戸の元々裏だった面に開口をあけたり縁側をつけることが可能となり、周辺住戸同士の関係性が自然に生まれてゆく。

